

2017年3月28日

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

南マット・グロツソ州イノセンシア市

「イノセンシア養護学校マイクロバス整備計画」

に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

去る3月17日（木）当館において「イノセンシア障がい者を支える親と友の会」に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式をパウロ・ファリア・ピレス理事長と当館中前隆博総領事の間で行いました。

●出席者の挨拶：

・中前隆博総領事「本日はおめでとうございます。理事の方々や先生の皆様の日々の努力に対しての当然の結果です。マイクロバスを整備することで、イノセンシア障がい者を支える親と友の会が今までなさって来られた重要な御活動が更なる発展をすること、APAEの生徒達のためになることを大変嬉しく思います。」と祝辞を述べました。

・パウロ・ファリア・ピレス理事長「今年の1月にイノセンシア障がい者を支える親と友の会の理事長に就任いたしました。プロジェクトは2015年に始まりました。よって本日の署名式に至りましたのは私の功績ではありません。私はテレザ先生及びマリア・アメリカ先生に功績を捧げます。総領事は元より、私共を訪問して下さった副領事にも感謝を申し上げます。このプロジェクトの窓口になって下さいました経済班の田口職員にも感謝を申し上げます。ここから千キロ以上離れているイノセンシア市、そして日本からはどのくらい離れているか分からないくらい遠い子供たちの問題解決のために力を貸して下さいました日本政府、日本の国民の皆様へ心から感謝を申し上げます。両国民の間にある絆は素晴らしいものです。総領事にも是非イノセンシアを訪れて頂きたい。」と謝辞を述べました。

●案件概要：

「イノセンシア障がい者を支える親と友の会」は1998年に設立され、地域の知的・複合障がい者33名に対して教育、社会福祉及びセラピー等の療育を行っています。

33名の生徒のうち4名は、車椅子を必要とする重度障がいを抱えています。現在使用しているバンは車椅子の昇降機等がなく、人力による昇降作業となるため転倒などの危険性もあり、生徒の通学の安全が確保できない他、職員等の身体的負担が大きいなど多くの問題を抱えています。

今回の協力は、通学用マイクロバスの整備に対し支援を行うもので、草の根・人間の安全保障無償資金協力として、74,682米ドルを限度に資金を供与することとしてます。これにより、生徒が安全及び快適に通学することが可能になるほか、更に効果的な教育支援活動が行われることが期待されます



左より中前総領事、パウロ・ファリア・ピレス理事長

(お問合せ先)

在サンパウロ日本国総領事館経済班  
(0 x x 1 1) 3 2 5 4 - 0 1 0 0